



昨年8月31日に東雁来の豊平川左岸河川敷で行われた札幌市総合防災訓練の様子



八月三十日(金)から九月五日(木)までは防災週間です。いつ起こるか分からない災害に備え、この期間には全国各地で防災訓練などが行われます。いざというときに慌てないように、この機会に防災について考え、各家庭で話し合ってみましょう。

家庭で日ごろから備えを

災害はある日突然やって来ます。どんなときにも冷静に対応できるように、家庭で日ごろから災害に備えておきましょう。

家族みんなで話し合おう

日ごろから災害について家族みんなで話し合い、次のことを決めておきましょう。

非常時の家族の役割を決める 火の元の確認、初期消火の担当などの役割を分担しましょう。

集合場所や連絡方法を決める 家族全員が一緒のときに災害が起こるとは限りません。家族がばらばらのときの連絡方法などを決めておきましょう。

避難場所を決める 実際に歩いてみて、経路や危険な所がないかをチェックしておきましょう。東区内の広域・収容避難場所は、次ページの表で確認してください。

非常持ち出し品を用意

大規模な災害が発生し、火災や建物の崩壊が広い地域で起こったときには、防災機関が迅速に対応することが難しい場合があります。少なくとも三日間は、家庭の備えで対応で

きるようにしておいてください。

非常持ち出し品の例は左の囲みの通りです。せつかく準備しても押し入れの奥にしまっていては意味がありません。リュックサックなどに入れて、すぐに持ち出せる所に置いておきましょう。そのほかにも備えておくべきものを、話し合っておいてください。

いざというときの心得

災害時には安全な場所に「早めに避難」することが、自分の身を守るために最も重要です。避難するときには、次のことに気を付けましょう。**ラジオなどの災害情報をよく聞いて、落ち着いて行動する**

避難する前に、まずガスの元栓を

非常持ち出し品の例

- 飲料水（一人一日三リットル）
- 食料品 乾パン・缶詰・インスタント
- ト食品
- 医薬品 傷薬・包帯・ばんそうこう
- 衣類 下着・タオル・軍手
- 貴重品 現金・預金通帳・印鑑
- その他 ヘルメットなどの保安帽・ラジオ・懐中電灯・マッチ
- ・ロープ・ナイフ・缶切り
- ・ビニール袋

閉め、電気のブレーカーを切る
必ず徒歩で移動し、自動車は使わない
道路の渋滞を招き、消火活動や救助活動の妨げになります。

地域で協力する自主防災

「自分たちの地域は自分たちで守ろう」と、町内会単位で地域の方々がつくる自主防災組織。大規模な災害発生時には、地域の方々が力を合わせることで、大いに威力を発揮します。自分たちの手で初期消火や、けがをした人の手当てをすることがある程度被害を抑えることができます。

東区役所と東消防署では地域の自主防災活動が進むように、次のような支援をしています。

防災リーダー研修 自主防災組織

から選ばれた防災リーダーを対象に、講義や実技指導などを行い、知識や技術の向上を図っています。

防災資機材の支給 消火、救出、

救護活動などに必要な資機材のうち、基本的なものをセットにして、自主防災組織を設置した町内会を対象に支給しています。

防災訓練の指導 町内会などで行

う訓練の計画から実施までを支援しています。

また、東消防署では今年四月から三年計画で「防火・防災まちづくりモデル事業」を実施。元町地区のめぐみ自治会と共進町内会がモデル地